

# 「そのきもち・どんなとき？」について

2025年3月 滋人教事務局

## 【はじめに】

滋人教「保育・授業をつくる」研究部では、教室や地域の学習会ですぐに使える教材を開発したいという思いのもと、教材『そのきもち どんなとき？』を活用した実践を授業研究会等とおして検討してきました。

同和教育では長らく「生活綴り方運動」の実践が行われてきました。これは、子どもたちが自分の日常を文章で綴り、自らの生活を観察し事実を認識して、それを踏まえたくましく生きていこうとするものでした。また、教職員はその文章から子どもの生活や背景に思いをはせ、子どもを深く理解しようとするものでした。本教材は「生活綴り方」の実践とは程遠いものであることを自覚しつつ、その理念に敬意をはらいながら、子どもが自らの生活や思いを語り、それを受け止めあえる仲間となっていくことを願うものです。

## 『そのきもち どんなとき？』のねらい

- 子どもが自分の気持ちを振り返ることで、客観視する力を養い、自分の生活をみつめる機会とする。
- お互いの思いや生活をきき合うことで、違いに気づいたり、共感したりして、自分の思いを語れる仲間づくりをめざす。

※「気持ち」について…「気持ち」はその人自身のものであり、他人が入っていくべきものではありません。子どもの気持ちをコントロールしようとするのは極めて危険です。この実践はあくまでも子ども自身が自分の気持ちを振り返り、自分のあり様を理解しようとするものです。おとなが子どもの内面まで入り込もうとするものではありません。

〒520-0801 大津市におの浜4-1-14  
公益社団法人滋賀県人権教育研究会 事務局



TEL 077-525-5096

FAX 077-525-5097

e-mail sijinkyo@mx.biwa.ne.jp

ホームページ <http://www.sijinkyo.jp>

# 「そのきもち・どんなとき？」の遊び方

## 【例①】

3人～6人のグループで行う。

準備物:さいころ、すごろくのコマ(消しゴムなどでOK)

- ① 配られたカードからしゃべりやすそうなカードを9枚選ぶ。
- ② カードを1～9のワクに並べる。
- ③ じゃんけんで順番を決める。
- ④ サイコロをふり、出た数すすむ。
- ⑤ すすんだところのカードに書かれている「きもち」について、それが「どんなとき」だったかを話す。
- ⑥ 時間がくるまで順番に回していく。  
\*パスは1回まで。

## 【例②】

3人～6人のグループで行う。

準備物:気持ちを考える場面

- ①カードを表向きに並べる。
- ②気持ちを考える場面を聞く。  
例「ジェットコースターに並んでいて、自分の順番が回ってきたとき」  
「95点のテストが返ってきたとき」
- ③カードの中から、自分のそのときの気持ちに近いものを選ぶ。
- ④選んだ理由を交流する。
- ⑤別の場面で考える。

**「そのきもち・どんなとき？」の遊び方の例はありますが、表示された遊び方にとらわれるものではなく、他にもいろいろな使い方を工夫していただきたいです。**

**空白のカードがあるので、子どもの実情に応じてカードを作り、選択肢を増やしてください。いつでも見えるところに置いておくことで、自分の気持ちがうまく言い表せないときにカードを使って、気持ちを表明できることもあります。**

**「こんな使い方がある」とか「ここを直したほうが良い」など、意見を(公社)滋人教事務局までお知らせください！**